

プロローグ アトラクションの様子

大会テーマ

「育樹の輪 ひろげる森と
木の文化」

10月9日、府民の森ひよしで、第40回全国育樹祭 式典行事が行われました。プロローグアトラクション「〜森と共に生きる〜」では、「京都丹波太鼓団」の演奏や「福知山踊振興会」の「福知山音頭」が披露されました。



▲「京都丹波太鼓団」の演奏



▲「福知山踊振興会」の「福知山音頭」

続いて会場スクリーンに森の京都エリアの6市町の映像が流れ、南丹市は若生の森や田歌の祇園祭、かやぶきの里が紹介されました。

次に、「お豆腐狂言」で有名な茂山千五郎家の5世茂山千作さん、14世茂山千五郎さんが「柿山伏」を上演。



▲「柿山伏」を演じる千五郎さん(右)と千作さん(左)



▲天皇后両陛下が植えられたシダレザクラを皇太子殿下がお手入れ(施肥)

また、前日の10月8日に、府立山城総合運動公園(宇治市)で皇太子殿下が「お手入れ」をされた映像がスクリーンに流されました。

午前10時30分、吹奏楽隊、合唱隊による壮大なオープニングテーマが会場に鳴り響き、皇太子殿下が会場に到着。国土緑化推進機構前田直登副理事長の開会宣言が行われました。



▲皇太子殿下が到着

京都府内各所の緑の少年団の行進、参加者約4千人による国歌斉唱の後、主催者あいさつとして、第40回全国育樹祭大会会長を務める伊達忠一参議院議長と山田啓二京都府知事が登壇。伊達議長は「本日の育樹祭を契機に、森林を守り、育て、生かす活動の輪が、京都府から全国の人びと、未来を担う子どもたちへ広がっていくようお願い」、山田知事は「千年の京都を支えてきた『森の京都』が、次の千年も栄えるとともに、さらに大

きな森づくりの運動が広がるようお願い」とあいさつされました。また、歓迎のことばとして、京都府民を代表して、植田喜裕京都府議会議長が「先人たちが残してきた森林には、木材の供給や水源かん養、土砂災害の防止、良好な景観の形成など多面的な機能があり、次世代へ継承していくことが私たちの責務である」とあいさつされました。

